

# 「廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現」プロジェクトに関する意見

令和8年5月1日

産業構造審議会グリーンイノベーションプロジェクト部会  
グリーン電力の普及促進等分野ワーキンググループ

本ワーキンググループで実施した議論を踏まえ、プロジェクト担当課室、NEDO、各実施企業等におかれては、プロジェクト推進に当たって以下の点に留意のうえ、今後のモニタリングにおいて、その対応について報告されたい。

## 1. プロジェクト全体・各実施企業等共通

- 本プロジェクトで開発する技術に関して、それぞれが適材適所でどのような領域・地域での適用が想定されるのか等の全体像を示していただきたい。また、他社技術と比較した際の優位性について、海外競合動向等の調査・分析を通じて、常に確認いただきたい。
- 研究開発段階から事業化を見据えた形で CAPEX や OPEX を踏まえた CO<sub>2</sub>削減コストやそのコスト構造に関する検討を進め、事業成立条件やコスト低減に係る見通し等について、定期的に確認いただきたい。
- 国内の市場創出・拡大に向けては、本プロジェクトにおいて技術確立した後の社会実装について、ユーザーとなる地方自治体と連携した検討・取組を進めていただきたい。
- 本プロジェクトの成果を踏まえた内容が、政府が作成する廃棄物処理施設を対象とした交付金の交付要綱における技術要件や性能要件等にオープンな戦略として盛り込まれるよう、政策当局としても具体的な検討を進めていただきたい。
- オープン&クローズ戦略策定の観点では、自社技術の秘匿化だけでなく、自社技術の優位性及び信頼性を示すための評価手法（評価技術、評価基準等）についての標準化も検討いただきたい。
- 廃棄物由来製品の信頼性確保のために、当該製品が利用先の要求する性能要件や仕様等を満たすことができるのかという点が重要である。市場や顧客の要求を意識した形で規格化を図る等の検討を進めていただきたい。
- 本プロジェクトで開発した技術について、国内普及だけに留まらず、東南アジア市場を中心とした海外展開を見据え、現地ニーズの汲み取り、ランニングコストや波及効果等の考え方の啓蒙など、官民を挙げた検討も進めていただきたい。
- 政府調達に有効な国際標準化や直接他国の採用基準への打ち込み等についても、並行して検討することが必要ではないか。そのために、まずは国内業界団体等の中での検討体制整備を積極的に進めていただきたい。

## 2. 各実施企業等

### ① 日鉄エンジニアリング株式会社

- 本プロジェクトの成果を踏まえた内容が、政府が作成する廃棄物処理施設を対象とした交付金の交付要綱における技術要件や性能要件等にオープンな戦略として盛り込まれるよう、政策当局とも連携して検討を進めていただきたい。
- CO<sub>2</sub>分離回収に関する評価方法については、「GI 基金事業／CO<sub>2</sub>の分離回収等技術開発」プロジェクトにおいて検討が進められているところ、統一的な評価手法が開発された際に、自社技術が有利な位置づけになることが市場獲得の上で重要ではないか。評価手法の開発には業界全体の合意を得ることが必要になるが、他の研究開発コンソーシアムの動き等を注視のうえ、当該検討に積極的に参画いただきたい。
- より実行力を持ってオープン&クローズ戦略検討等の標準化活動を推進するため、CSO (Chief Standardization Officer : 最高標準化責任者) 等の担当役員等の設置や、若手人材の育成についても検討いただきたい。

### ② カナデビア株式会社

- 焼却技術だけではなく、水電解技術やメタネーション技術等と組み合わせる等、廃棄物処理の上流から下流までの全体として展開できるよう、関係各社との連携やシステム全体の価値を評価するための指標の標準化について検討いただきたい。
- オープン&クローズ戦略の実効性を高めるために、役員級による標準化担当責任者の設置や、若手人材の育成についても検討いただきたい。

### ③ JFE エンジニアリング株式会社

- 国内一般廃棄物に関しては、適正処理・安定処理の観点が重要視されており、長年実績のある焼却技術以外の新規技術の導入については積極的ではないことが想定される。国内産業廃棄物や海外市場の動向等も踏まえ、真に適用可能性の高い領域がどこか見極めるための検討に取り組んでいただきたい。
- 需要家を確保していく観点から、熱分解処理で生成した合成ガスの用途については、エタノール以外の出口の可能性も視野に入れていただきたい。
- SAF 向けの認証取得に取り組んでいる点は評価できる。同様に、他の用途向けにおいても信頼性確保のためプロセスの標準化、製品性能や環境価値の評価手法の標準化等について検討いただきたい。

### ④ 水ing エンジニアリング株式会社

- 業界全体としてはごみ処理の広域化・集約化の傾向がある中、当該技術に対する需要がどの程度か不透明感がある。バイオメタネーションの価値追求を継続するとともに、需要家との対話等を通じた事業成立条件の検討を進めていただきたい。
- バイオメタンの需要について詳細に把握するとともに、安価な水素調達の可能性も含め、ターゲットとなる地域等についての具体的な選定を進めていただきたい。

の際、都市ガス設備での利用に拘らず、例えば地域分散型エネルギーとして活用する等、異なるビジネスモデルによる検討も含めていただきたい。

- 事業性を検討する GI 基金推進開発部が設置され、要素技術開発の段階から、標準化を含むオープン&クローズ戦略の検討が進められる体制構築を行っている点は評価できる。今後は CSO（Chief Standardization Officer：最高標準化責任者）等の担当役員等の設置や、若手人材の育成についても検討いただきたい。

以上